令和４年度　第２回壱岐市洋上風力発電等導入検討協議会
議事要旨

■ **日時**：令和４年 12 月 22 日(木)　14:00～15:30

■ **会場**：壱岐の島ホール（壱岐文化ホール）　1F　中ホール

―議事―

(1) 事業の進捗及び今後の予定について

【河邊会長】

事務局からの説明について質問等はないか。

【Ａ構成員】

鳥類調査結果の結論として、保全措置が検討されることが望ましいとあるが、具体的にはどの様な措置が実施される見込みなのか。また、今後の予定に地域住民との意見交換会を実施するとの記載があるが、地域住民が参加しやすい、土曜日や夕方等の時間帯に開催する配慮が必要と考える。

【事務局（国際航業）】

鳥類調査は事業内容が決定していない段階の概略の調査である。今後、導入可能性エリアが決定し、促進区域が指定され、発電事業者が選定された際には、実際の事業実施箇所において、環境影響評価が実施され、より詳細な鳥類の生息状況が把握される。具体的な保全措置の内容は、こうした調査結果を踏まえて検討されることになる。また、住民説明会については、ご指摘の通り地域の皆様に集まっていただきやすい、適切な時間帯に開催する。

(2) 洋上風力発電導入がもたらす壱岐市の将来像について

【河邊会長】

事務局からの説明について質問等はないか。

【Ａ構成員】

洋上風力発電導入により、重大な影響が確認された場合は、事業が途中で中止になることもあり得るのか。

【事務局（壱岐市）】

漁業にしろ、環境にしろ、事前に影響調査を実施する。その結果、著しい影響があればその様な場所での実施はない。一定の影響があった場合、対策が明確になっていれば、その対策を実施した上で事業は進められると考える。また、工事中、風車稼働中も引き続き、事業による影響を継続的に監視していくことになる。これにより、予期しない影響、壊滅的な影響が確認された場合には、事業が中止となる可能性がある。ただし、追加の対策等により、影響の回避、改善対策が取れる場合は、対策をしながら事業が継続されることになる。どういう影響があるかを継続的に見ていく事が重要と考えている。

【河邊会長】

影響の程度をどれだけ測るかがポイントになる。先行しているヨーロッパでは、事業の実施に際しては、まず比較対象となる当該海域の現況を事前に調査し、各種データを把握する。これらのデータと、工事を含めた事業の各段階において生じることが予想される影響を比較することで、事業による漁業や環境への影響を評価することとなる。これは人間が判断する事になる。評価は各段階において実施され、著しい影響が認められた際には、風車の撤去を含めた対策が実施される。こうした考え方は順応的管理と呼ばれ、海外の先行事例でも一般的に採用されている。

【Ｂ構成員】

資料 2 について、洋上風力発電によりもたらされる壱岐市の将来像が視覚的にまとめられており、分かりやすいと感じた。最近、秋田県、五島を始め、洋上風力発電に関するニュースがよく報じられており、目にする機会も多い。そうした中でも、壱岐市が目指す日本最大の 100 万 kw 規模の洋上風力発電は、先進的な取り組みであり、実現された場合に予想される経済への効果は、島の産業構造を変えるほどの影響力を持っているのではないかと考えている。資料にもあるが、豊富な電力を活用した水素の製造が軌道に乗れば、他地域への輸出等更なる経済の活性化が期待できる。洋上風力によるメリットは地域住民にとっても関心の高い事項であると考える。島の産業全体が変わる様な変化もあると考えられる。これら 100 万 kw 規模の洋上風力発電による変化を周知していけば、地域住民の理解につながるのではないかと考える。

(3) 導入可能性エリア(案)について

【Ｃ構成員】

壱岐市が検討の末に導入可能性エリア案を抽出したことは認識しているが、漁業関係者の代表として、意見を述べる必要がある。芦辺・対馬フェリーの定期航路を一本化することが可能との説明があったが、これら並走する 2 航路のうち、移動することが望ましい航路は運航事業者 A の航路であると考えている。同航路が位置する海域は、漁業への影響が比較的少なく、洋上風力発電施設の設置に適していると思われる。このことから、同航路を現在の位置から北側にずらしてはどうかと壱岐市に以前から提案している。これは、当漁協に所属する組合員の説得にも必要な事項となっている。実現のため壱岐市にご協力をお願いしたい。

【河邊会長】

事務局は、今後航路筋の変更についても検討していく予定はあるのか。

【事務局（壱岐市）】

本協議会での了承が取れ次第、関係する先行利用者と調整していく予定である。Ｃ構成員からのご指摘、既存の並走する 2 航路の一本化及びそれによって生じた空間の導入可能性エリア案の設定についても、今後の個別調整で検討していきたい。

【Ｄ構成員】

現在の漁業者を取り巻く環境は厳しい状況にある。実際に今冬の漁獲量は、過去に例を見ないくらい少なく、今後の壱岐市の漁業の行く末を案じている。また、漁業において最も重要な要素の 1 つである他の水生生物の餌となるイカやイワシなどの漁業資源は全国的な減少傾向にあり、地球温暖化、磯焼けが進行している地域も多くみられる。こうした問題は、壱岐市においても進行しており、漁業の衰退がこのままが続けば、10 年後は 1/3、20 年後は半数、30 年後には漁協組合員数は現在の 1/3 まで減少すると予測されている。これは 80 歳まで組合員であった事を前提としている。私が平成 8 年に組合役員になった時の正組合員は 600 名であった。今では 200 名であり、町内は空き家ばかりである。このように漁業が危機的な状況にあるにも関わらず、この 3 年間、洋上風力発電の導入に関する議論は、あまり進展していないように感じる。漁業者、壱岐市が一枚岩になって初めて物事は進むと考えている。市議会議員にもこの会場に来てもらいたい。実現するには議会の協力を得て、導入の機運を盛り上げていただく必要があると考える。洋上風力発電は人口減少の歯止めをかけるためにもこれしかなく、壱岐市にとって大きなチャンスである。このままでは生活できないため組合員はいなくなってしまう。若い組合員からは洋上風力発電はまだ解決しないのか、と質問されている。

壱岐、対馬、五島は人口減少が止まらない状況である。

県知事許可漁業の課題について、水産庁に意見したところ、国の方では協議を始めており、元水産庁次長が専門的に取り組んでいるとの事。

何とか前向きに、特に壱岐市の議会で、将来、どの様にしていくのか検討して欲しい。

【白川市長】

力強いご意見をいただいたと考えている。壱岐市としても洋上風力発電の導入を是非実現したいと考えており、そのための一歩がこの協議会である。この協議会で採択していただきたい。なお、先ほど議会で洋上風力発電導入に関する事項を取り上げることを希望するとの発言があったが、議会はそういった議題を取り扱う機関ではない。これまでの検討の結果、壱岐市周辺海域において 94.1km^2 の導入可能性エリアを抽出したところであるが、重要なのは面積自体ではなく、これによりどの程度の発電量が確保できるかである。これについて、事務局より説明を求める。

【事務局（壱岐市）】

導入可能性エリア案には、15MW の風車が約 36 基建設可能と試算している。これによる発電量は約 50 万 kw 程度、原発 1 基の半分ぐらいであり、壱岐市が目標とする 100 万 kw、原発 1 基分を実現するためには、今回導入可能性エリア案として抽出したエリア以外についても、検討を継続していく必要がある。本事業はその先駆けであり、まずは今年度中の導入可能性エリアの抽出を目指したい。

【Ａ構成員】

第 3 回目の協議会で導入可能性エリアが決定するとのことだが、具体的には、いつまでにどの様な方法で決まるのか。

【事務局（壱岐市）】

本日の協議会で導入可能性エリア案をご承認いただけた場合は、資料に示す各種取り組みを進めていく予定である。地域住民との意見交換会、先行利用者との個別調整、発電事業者との意見交換、景観の現地視察会等の実施を予定している。これらにより、抽出された導入可能性エリアを第 3 回協議会に諮り、皆様との協議の結果、導入可能性エリアが決まる予定である。

【Ａ構成員】

第３回協議会で反対意見がなければ、決定ということか。

【事務局（壱岐市）】

事務局からの提案に対して、反対意見がなければ、承認されたと考える。

【Ｂ構成員】

今回、導入可能性エリア案が示されたわけだが、想定する発電量は、壱岐市が目指す 100 万 kw の約半分程度である。まずは、半分程度の導入を目指しているということか。

【事務局（壱岐市）】

最終的な目標は、100 万 kw であるが、まずはその半分となる 50 万 kw を目指している。

【Ｂ構成員】

資料を見る限り、候補エリア③は半分以上縮小しているように見える。どういった経緯で縮小したのか。一番の理由を教えて欲しい。

【事務局（壱岐市）】

元々、県のゾーニング事業で設定されたエリアであった。ただ、候補エリア③の沖合海域は、一般海域であり、他地域を含めた漁業者が活発に利用しており、今年度中の合意形成は困難な状況にある。よって、今回は、こうした影響が比較的少ない範囲かつ浮体式洋上風力に必要な 80m 程度の水深が確保できるエリアを抽出し、導入可能性エリア案として設定するに至った。なお、西側の海域は浮体式洋上風力発電の適地であり、残りの範囲についても今後検討を進めていきたいと考えている。

【Ｂ構成員】

原発 1 基分から半基分に変わったのでイメージは変わったが、了解した。個人的には導入可能性エリア案について異論はない。

【河邊会長】

補足であるが、風車配置の考え方は発電事業者ごとに異なるため、当該エリアにおける洋上風力発電の規模が必ず 50 万 kw になるとは限らない。また、沖合海域については、他海域からも漁業活動が入ってくる事から、今後も検討を継続していくこととし、まずは比較的実現可能性が高い、沿岸域の海域について、検討を進めていくという考えである。

【事務局（壱岐市）】

次回協議会は 2 月を予定している。

以　上